

タイガ /

知ろう、まもろう タイガの森、

2009.12.02 「タイガの森フォーラム」 発足



タイガの森フォーラム運営委員会 野口 栄一郎 (国際環境NGO FoE Japan)

タイガの森フォーラムとは？

- 地球環境・森林・生物多様性・先住民・日本とのつながり等の観点からロシア極東の森林「タイガ」の危機に気づき始めた環境NGOと企業が、「知ろう、まもろうタイガの森、」や「タイガって何だ？」を合言葉に共同で発足させ、ぜひ皆さんにご参加・ご協力を頂きたいと考えているフォーラムです
- 「ウスリータイガ」と呼ばれる貴重な森林が残り、絶滅危惧種アムールトラの生息するピキン川流域(ロシア沿海地方)の世界遺産登録を支持し、関心喚起・事態促進の活動を行います

はじまるフォーラム

- タイガの森サポーター (お申込受付けています)
- 呼びかけ人の方々
- 運営委員会 (国際環境NGO FoE Japan、地球・人間環境フォーラム、株式会社リコー、パタゴニア日本支社)

タイガの森フォーラムの活動

1. ビキン川流域、タイガの森に関する普及啓発活動 (セミナーやツアーを実施)
2. 現地のウデへの人々のレンジャー活動、ツーリズムの取り組み、フェアトレードなどを応援
3. ビキン川上～中流域(約1万1,500km²)の保護・世界遺産登録を目標にロシア政府へ働きかける



日本海に沿って連なる「シホテ-アリニ山脈」。その山脈に流れを発する「ビキン川」(全長580km)

「氷河期とこの地域の気候、地形により、世界で最も豊かで、類稀な温帯林が形成している」

(IUCNの評価報告書から)





樹高約35メートル(目算)

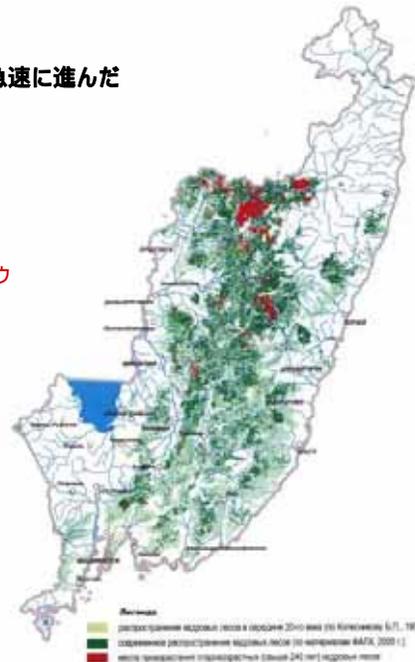
ビキン川中流、ウリマ山のケドゥルの樹(チョウセンゴヨウ)

タイガの森を脅かすもの：伐採

- 20世紀：旧ソ連が日本へ輸出していたチョウセンゴヨウ材(ベニマツ)を伐り出すための伐採によって、ロシア沿海地方のチョウセンゴヨウ林は20世紀後半の50年間で約50%減少したという。そして、ビキン川上流のタイガ林は1992年の伐採計画で伐採される寸前、ウデへの人々の行動で守られた
- 現在の脅威：違法に行われる伐採。そしてビキン川上流のタイガ林に対する開発・商業伐採の可能性

20世紀からロシア沿海地方で急速に進んだ チョウセンゴヨウ林の減少

- 20世紀半ばの分布
- 2005年の分布
- 樹齢240年以上のチョウセンゴヨウの残っている地域



出展 WWF ロシア、2007年

ビキン川のタイガの森が、

- **伐採から守られると**：ウデへの人々は伝統的な自然利用を続けることができる／トラなどの野生生物が生きていくことができる／ツーリズムを通じて世界の人々がウデへの人々からタイガを教わる事が出来る
- **伐採で失われると**：ウデへの人々が伝統的な暮らしを失う／トラなどの野生動物と人間の共存も厳しくなる／ユニークさやスケールにおいて北米のオリンピック国立公園(世界遺産)に匹敵するといわれる独特の森林植生が失われる／海の生態系に影響の及ぶ可能性もある



密猟者から押収された毛皮 (アムールトラ、2006年)

「外国」の自然、「海のむこうの出来事」だとしても

- 私たちをずっと生かしてきた自然 — そのいとなみ・つながりは国境を越えている
- 私たちの日々の消費・経済 — そのつながり・影響が国境を越えている
- 消費や経済が知らないうちに「外国」で森や野生動物、人々を脅かす時代なら？ 私たちがタイガやけもの、ウデへの人々と共存していくためには、国境を越えるアンテナや行動が効くだろう

求めていく、タイガの未来

- ビキン川上～中流域(約1万1,500km²)の世界遺産登録が実現し、この地域の貴重なタイガ林が開発・大規模伐採から守られている未来
- 違法伐採や密猟に対する抑制が効いていて、ビキン川上～中流域の野生動物(アムールトラ他)の生息地が良好な状態に保たれている未来
- ウデへの人々がビキン川流域の自然の伝統的利用者兼 守り手として生活・活躍できている未来(レンジャー活動やツーリズムに従事して)



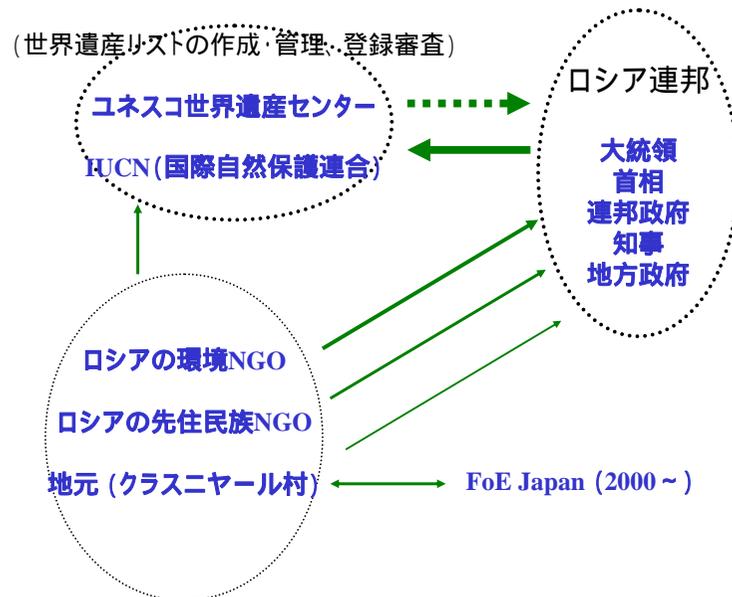
ロシア沿海地方のビキン川、9月

「ビキンを守ろう」の声のヒストリー (1990～2010～)

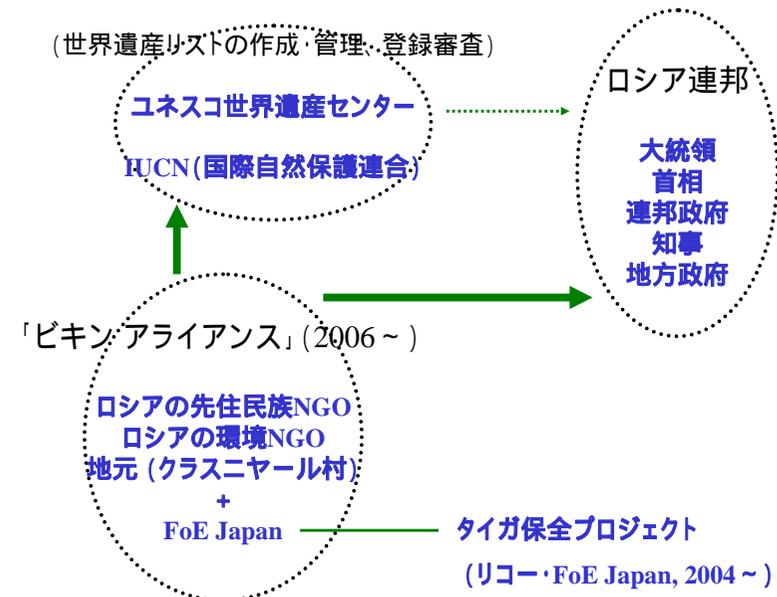


世界遺産申請が行われ、審査の結果、登録の保留されているビキン川上～中流域 (約1万1,500km²)

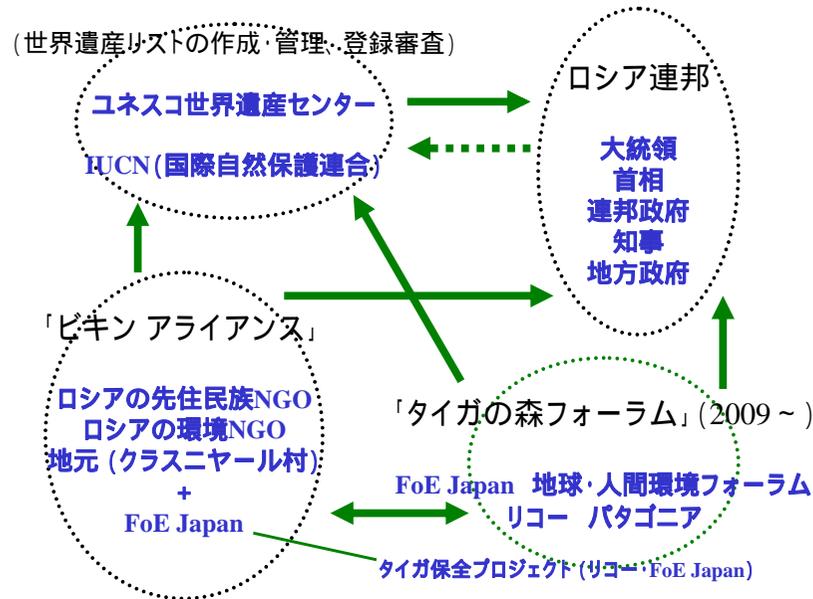
1990年～2003年ごろはこうだった、「ビキンを守ろう」の声



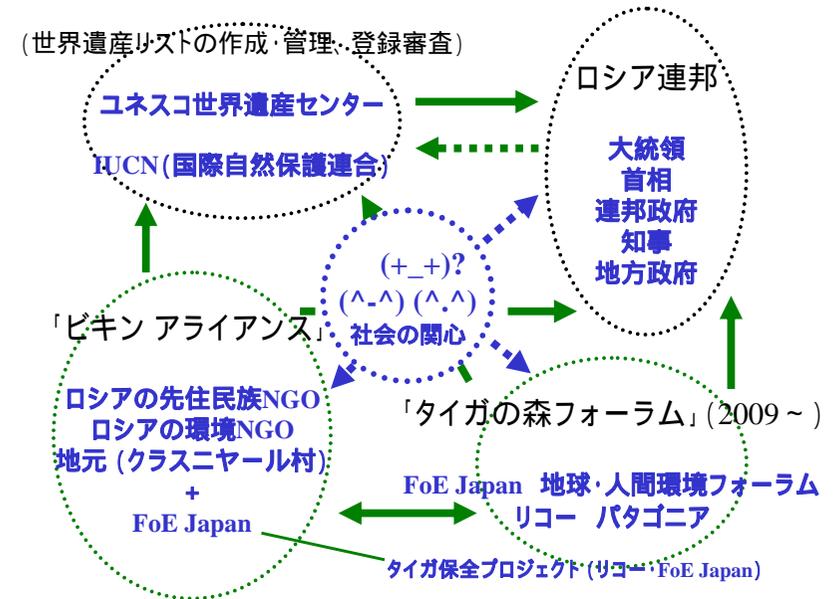
2004年～2009年ごろはこうだった、「ビキンを守ろう」の声



2010年～2012年はこうしたい、「ピキンを守ろう」の声



理想の関係、「ピキンを守ろう」の声



目標;
ピキン川流域が世界自然遺産となり、大規模な伐採は事実上困難になる。トラとウデヘが流域で共存している。世界の人々がタイガ林の大切さを知り、ウデヘはタイガの守り手・教師として活躍している。そして、流域のウスリータイガのチョウセンゴヨウの実が動物たちに運ばれて、他の地域でも少しづつチョウセンゴヨウ林が回復する



『タイガの森フォーラム』呼びかけ人の方々

リコー・FoE Japan タイガ保全プロジェクト、
2004年～2013年ロードマップ

足立 直樹さん

レスポンスアビリティ代表取締役

あん・まくどなるどさん

国連大学高等研究所
いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット所長

市田 則孝さん

バードライフ・インターナショナル副会長
バードライフ・アジア会長

伊藤 健次さん 写真家

柿澤 宏昭さん

北海道大学農学研究院教授

梶山 雅秀さん

北海道大学大学院 水産科学研究院教授

C.W. ニコルさん

作家
C.W. ニコル アファンの森財団理事長

谷口 正次さん

資源・環境戦略設計事務所代表
資源・環境ジャーナリスト

谷 達雄さん

株式会社リコー 理事 技師長
社会環境本部本部長

津曲 敏郎さん

北海道大学大学院 文学研究科教授

寺島 一男さん

大雪と石狩の自然を守る会 代表

中野 透さん

東北大学大学院生命科学研究所教授
東北大学生態適応グローバルCOE拠点リーダー

平野 喬さん

地球・人間環境フォーラム 専務理事

三橋 規宏さん

千葉商科大学政策情報学部教授

ランダル・ヘルテン

国際環境NGO FoE Japan 代表理事

これから1年間の活動予定

2009年12月 発足シンポジウム「タイガって何だ？」

2009年12月下旬 タイガの森ブログスタート

2010年上半期 タイガの森とビキン川流域の世界遺産登録をテーマに国内でネットワーキング。タイガ林の先住民と連携してロシア政府へビキン川流域の保護を要望する公開メッセージを送る

2010年夏～秋 現地活動/タイガの森ツアー

2010年10月 COP10にあわせ生物多様性の観点からビキン川流域の保護をロシアへ働きかける

『タイガの森フォーラム』呼びかけ人になっていただいている方々

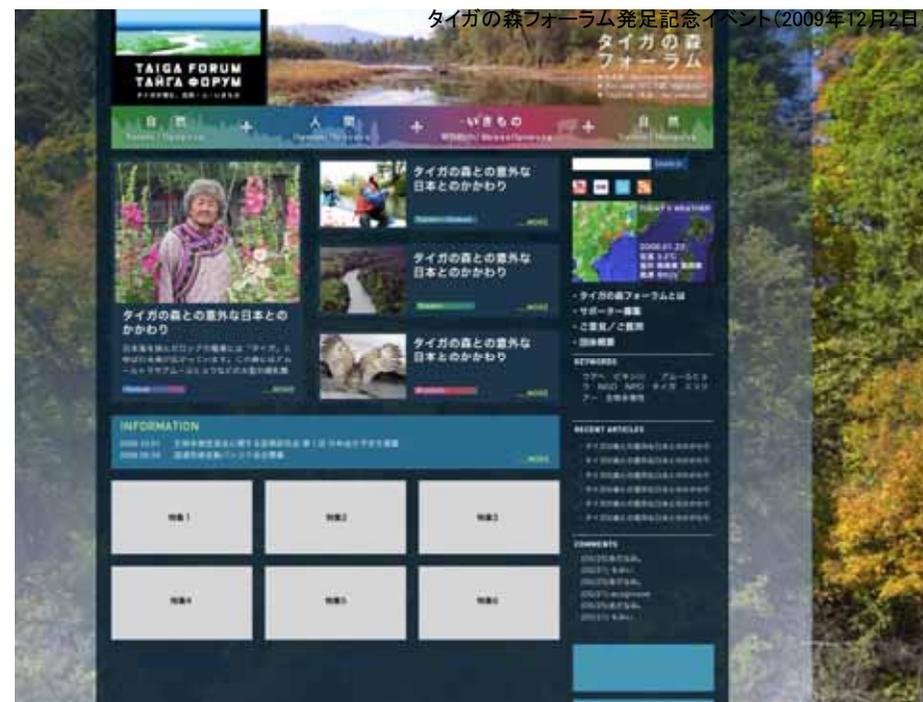
タイガの森フォーラムのロゴ



(空と山、蛇行するビキン川、タイガ林を表わす画です)
(英語・ロシア語・日本語で活動していけるよう、ご協力下さい)

taigaforum.jp

タイガの森ブログ、12月下旬スタート



TAIGA FORUM
ТАЙГА ФОРУМ



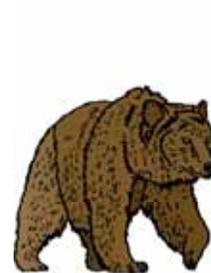
シマフクロウ

翼開長2mのシマフクロウ、
ロシア語ではリブヌイ・フィーリン
ウデヘ語ではガーンバ

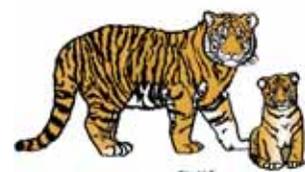


ビキン川のタイガに生きるけものたち

ソング、グアイジマ、ガーンバ、キャンガー、ナクター、ティプザイ、クティ



TAIGA FORUM
ТАЙГА ФОРУМ



ビキン川のタイガに生きるけものたち



1. ビキン川流域、タイガの森に関する
セミナーやツアーを実施



タイガの森フォーラム発足記念イベント(2009年12月2日)

2. 現地のウデへの人々のレンジャー活動、
ツーリズムの取り組み、フェアトレードなどを応援



3. ビキン川上～中流域(約1万1,500km²)の保護・世界
遺産登録を目標に、ロシア政府へ働きかける



タイガの森フォーラム
taigaforum.jp